

麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

おひさまだより

発行 麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会 2008年5月

vol.14

自然エネルギー施設見学会 山梨県都留市

「家中川小水力市民発電所ほか」

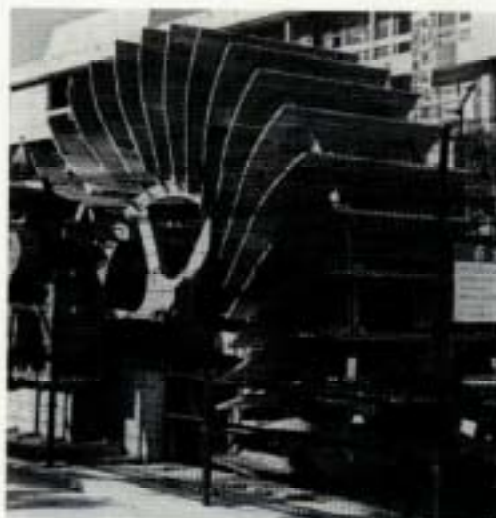
自然エネルギー施設 バス見学会

平成19年11月28日

見学先：山梨県都留市家中川小水力市民発電所ほか

目次

施設見学会 山梨県都留市家中川小水力発電	… 1
「エコのまち麻生をめざすまちづくり」フォーラム開催	… 2,3
出前授業 片平小学校	… 3,4
麻生区民まつり	… 4



この小水力発電所の見学については、以前から実行委員会で課題になっていたが、昨年は河川改修工事の関係で施設が休止中であり、見学会を見送ったいきさつがあった。

実施当日は天候にも恵まれ、往路のバス車内で委員会活動の紹介や参加全員の自己紹介などを行い、順調に走行、中央高速自動車道を経て、現地の「ミュージアム都留」に到着した。

ここで都留市役所総務部政策形成課の奈良泰史課長、同相川泰主管（兼課長補佐）から当市の歴史、歴史開発の経緯、概要などの説明を受けた。そして近傍の小水路に設置された信州大学の小水力発電実験機を見た後、目的の「家中川小水力市民発電所元気くん1号」を見学した。

この水力発電施設は、市役所構内を流れる家中川（江戸時代の用水路として開削設置された）に設けられており、外部に露出した水車は直径が6mあり、真近かで直接見られ、かなりイ

ンパクトがある。なお、この小水力発電所は今年2月に環境省主催の地域の特色を生かした地球温暖化防止活動を発表し合う「ストップ温暖化『一村一品』大作戦全国大会」で金賞を受賞された。

帰途、経路途中にある「山梨県立リニア見学センター」に立ち寄った。事前に調べたインターネット情報で「リニアモーターカーの試験走行はない」とバス車内で紹介し、見学センター駐車場に降り立った途端、目の前をリニアモーターカーが通過したものだ。案に相違して走行実験中であつたので、見学センターで走行状況や目前で停車した車両などを見学できた。

帰路には、参加者全員で各自の感想や考え方を話し合い、和気あいあいとした雰囲気の中で、自然エネルギーに関する知識・認識を深めることができた。

○参加者の感想・意見（主旨要約）

- ・エネルギーについて学習でき、改めて考えさせられた。
- ・この経験を家族で話し合い、日常生活の中で生かしたい。
- ・地球温暖化については自分たちは加害者であり、また被害者でもあることが解った。
- ・小さなことの積み上げが大切であり、身近なところに改善点があることが解った。
- ・いろいろな説明を聞き、水車を身近にみて感動した。
- ・麻生区でも都留市を見習って何かできないか、エネルギーの街にしたい。
- ・いろいろな団体がどう活動し、どう行動できるかがポイントであると思う。（額綱正太郎 記）

「エコのまち麻生をめざす

まちづくり」フォーラム開催

- 開催日時 2008・3・20（木・祝） 13:30～16:30
場所 麻生区役所 第1・2会議室
基調講演 飯田哲也さん（環境エネルギー政策研究所所長）
パネリスト 長澤宗幸さん（里山フォーラムin麻生副代表）
山崎優さん（あさお生きごみ隊代表）
高松順子さん（環境局地球温暖化対策担当主幹）
飯田和子さん（当会委員長）
コーディネーター 飯田哲也さん



基調講演の趣旨

- 現在世界は2つの大きな危機をかかえている。1つは地球温暖化（IPCC第4次報告で断定した）もう1つはピークオイル（2010年前後）。これに対し自然エネルギーは急成長を遂げており、既に経済・産業・エネルギーの本流に突入している。
- 自然エネルギー普及のメリット
 - ①地域の環境問題の解決 ②地域資源の有効活用 ③意思決定への市民参加
 - ④地域社会の活性化 ⑤生きた環境教育の普及 ⑥地球の温暖化防止
 - ⑦日本エネルギー自給率向上 ⑧自然エネルギー産業の育成 ⑨雇用の創出
- 自然エネルギーの普及策
 - 1) 「入口から押し込む」から「出口から引っ張る」へ政策の転換をする。電気料金政策という出口政策で、ドイツは太陽光発電の急拡大をし、世界市場を牽引している。他の出口政策として、ビジネスモデル・社会モデルを作る、環境税導入、長期価格保証など。
 - 2) エネルギーを事業政策から、生活者のためのエネルギー政策へ転換する。
暖房や冷房を自然エネルギーに。太陽熱温水器も復活させる。住宅を無暖房可能住宅にする。
 - 3) ネットワーク社会を構築する・・・飯田哲也さんのトライ
エネルギー変革は地域や市民など、個人や地域の力が大きい。

長野県飯田市の例：「皆さんのお金を単に増やすだけでなく、地球にいいことに使いませんか」と市民に出資を呼びかけ、市民ファンドで、5年間で900キロワット太陽光発電を設置した。「グリーン電力証書」を買うことで、自然エネルギー電力を使ったとみなされて、温暖化防止に貢献できる仕組みも立ち上げ、実施している。

パネルディスカッション

長澤さん：「緑を愛することは、誰でも参加できます」。樹木の二酸化炭素吸着量は、葉っぱの面積×2.5（吸着指数）で算出される。
樹木を育てることの意味、簡単に伐採することの罪悪さを知った。

山崎さん：家庭の生ごみを回収して、堆肥を作っている。ごみの30%を占める生ごみを資源化した。20年度からは川崎市も協働し、農家とも連携したリサイクル事業を実現している。

高松さん：市では「新エネルギービジョン」のなかで、自然エネルギー施策を発表している。学校の屋上などへの太陽光発電は新設校は設置しているが、既存校については検討中。

飯田さん：2003年から太陽光発電など、自然エネルギーの活用をPRしてきた。小学校への出前授業や区役所広場での「おひさまと遊ぼう」。広報誌の発行など。今後はいろんなエコ活動をしている団体やグループを結集して、麻生区をエコのまちにしてゆきたい。そのための具体的な提案として、

- ① 市民ファンドによる太陽光発電所の設置
- ② 農産物の地産地消の推進自然食レストランの開設など、「こんなことやってみたい」という提案がたくさん出された。

意見交換会

○受講内容について、提案や意見そして自然エネルギー体験談など沢山交換できた。

- ①市民参加で鎌倉市のように緑地保存資金をつくってはどうか。
- ②車は使わない、住宅や商品を長持ちさせる、飛行機に乗らない等思い切った省エネ生活へ転換する。
- ③太陽光発電を自宅に設置したら、月30,000の電気料金が、5,000円になった。エコについて、麻生区で年間2回程度意見交換会、情報交換会を行っては如何でしょうか・・・との提案でしめくられた。



まとめ

区役所の屋上に太陽光発電を設置して5周年。それを記念して今回のフォーラムを開催した。ねらいは環境面から麻生のまちづくりを考えようと言うもの。このため分野ではこれ以上の講師はいない飯田哲也さんを迎えることができた。

市民間のネットワークづくりや、1人1人は小さな力だが、集めれば大きな力になる。自然エネルギー発電所の建設はもちろん、行政、国、産業をも引っ張ることも可能であることを知った。その小さな力をどうやって結集するか？私たちの大きな課題です。また市民一人一人にとっても、エコを意識して生活し、如何に温暖化防止策を実行するかが課題です。 (矢澤耕一 記)



片平小学校の出前授業

平成20年2月19日(火)9時50分頃、片平小学校の門をくぐる。ゆるゆると車を進めて校庭に入り、沢山の教育器材を車から下ろす。薄い雲の多くなってきた空模様を気にしながら、実行委員たちはデスクの配置を決めると、其々の担当に分かれて器材の組み立てをし、生徒さんたちが見易いように、手に触れ易いようにと配慮しながら、その上で位置を決めて行く。準備中、「おひさまの出具合はまあまあか」と呟きながら働く内に、デスクの上が整い、旗が風にはためき、説明用パネルがセットされ試運転もOK、マイクの準備完了となって、時刻は早くも10時40分。

相変わらず空を気にしながら、45分開始の視聴覚教室での授業に、それと、ばかりに移動。教室にはもう生徒さん達、5年生の3クラス、98名の皆さんが勢揃いで、本日の講師役の実行委員が教鞭を片手にスクリーンの前に立っている。そして、まずは挨拶に始まって、『講義』開始。「おじさんたちが君達と同じ歳ぐらいの子供の頃はね、こんなに便利ではなくて、ご飯は火をおこして炊き、水は手でポンプを動かして井戸から汲んでいたーなんて話から始まり、便利だが多くのエネルギーを必要とする今の世界のこと、それによって進んだ地球の温暖化のこと、その結果発生している異常な状況それに資源の枯渇のこと、そして温暖化対策のことについてと話は進んで11時。

次に、全員が校庭に準備された会場へ移動。「どうかおひさま出てくださいよ！」と祈りながらの司会役の声、「はい！4つのグループに分かれて座りましょう」で始まり、簡単な全体説明の後、其々のグループが分かれて『見学と体験』だ。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| (1) おひさまエネルギーボックス見学 | (2) ソーラー・燃料電池自動車の実演見学 |
| (3) ソーラーおもちゃセットの見学 | (4) ソーラークッカーの調理実演見学 |

4グループが全ての場所を賑やかに回り終わって見学終了。結局、この時間、太陽は余り輝くことなく、太陽光発電によるモーターや太陽熱を利用するクッカーの働きが低調で、少々残念！ 3分程できれいに焼き上げる箸の目玉焼きは薄っすらと白身が白濁する程度で、生徒さんに火力の強さを実感してはもらえませんでした。

でも、「化石燃料を燃やし続けてきた結果、大気中に増えて来たものは何？」と言ったクイズをしながら『まとめ』をしている時間に、おひさまがもうチョット顔を出し、少しましに焼けた目玉焼きが見られました。しかし自然エネルギー活用の限界も感じさせる、この日の授業でした。

蓄電の技術が進んで来た結果、風力発電の風の無い時の問題や、太陽の出ていない時の問題も解決されつつあります。これまでも太陽光活用は、利用ネットを広域化することによる対応等も研究されてきており、今後の技術の大幅な進歩に伴って、生活環境を大きく変える可能性が期待されています。自然エネルギー活用の技術を持つわが国の場合、これからは、風力発電の普及で世界1位となっているドイツの例に見られるように、どのようにして自然エネルギーを活用した設備、装置、施設等の普及を全国的に図るかが大きな課題のようです。（樋口誠 記）

あさお区民まつり

麻生区役所で10月14日に開催された「あさお区民まつり」に参加しました。人通りの多い角地で、ソーラクッカーを展示したのですが、残念ながらおひさまの光が弱くて調理はできませんでした。

でも自然エネルギーの説明パネルが、歩く人達を立ち止まらせます。ジーっと読み耽っている人。「なるほど」と感心している人など、反応は様々ですが手応えがありました。それと昨年と同じクイズなのですが、こちらは大人気です。問題を繰り返し読んでいる私たちの方が疲れてギブアップと言う感じなのに「昨年もやったよ！ でもやりたい」と再挑戦。正解すると「やった！ 忘れていなかったよ」と嬉しそうです。不正解だと残念そうです。小さい子供からご年配の方まで盛り上がるクイズでした。

区役所の屋上の太陽光発電装置見学会は朝からチラシを配っての呼び呼び込みの効果があって、多数の方が参加しました。ソーラパネルを初めて目にする人や、自宅に取り付けようと計画している人などいろいろな方がいました。

今年も麻生区の自然エネルギー活用促進事業を広く区民にアピールすることができました。（宮河悦子 記）



==== 編集後記 =====

私たちが生きて、住んでいる麻生区。緑多く、芸術の香り溢れる街・・・ 胸を張ってそう
いえる様になる為には、これからどんな取り組みをしていったらいいのでしょうか。「おひさまだより」
をつくっていて、そんなことを考えさせられました。当委員会では、そういったことも考えて行きたい
と思っています。（河野順子 記）

発行：川崎市麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会（委員長飯田和子）

編集担当：河野・樋口・吉松・吉田・和田

問い合わせ先：麻生区役所地域振興課 Tel 044-965-5116 Fax044-965-5200

川崎市麻生区万福寺1-5-1 発行日：2008年5月12日